

## 第4回新図書館西敷地利活用検討委員会の概要について

日 時：平成28年10月11日（火） 午前10時00分～午前11時45分

場 所：たかじょう庁舎 6階会議室

出席者：8名 委員長 産田 節雄 副委員長 広末 幸彦  
委員 和泉 潤 委員 土居 純子  
委員 古谷 純代 委員 吉岡 諄一  
委員 渡部 淳 委員 中澤 慎二  
委員 清水 博

事務局： 高知市商工観光部参事商工振興課長事務取扱 狩場 信壽

商工振興課中心市街地・地域商業活性化推進室長 松岡 宏輔

商工振興課中心市街地・地域商業活性化担当係長 和田 夕子

- 1 開会
- 2 議事 (1) クロスSWOT分析
- 3 その他
- 4 閉会

---

### ■ 議事概要

#### (1) クロスSWOT分析

事務局より説明（資料1～3）

#### 【委員長】

質問と意見に分けて聞いていく。まず、質問のある方から願います。

#### 【副委員長】

前はスケジュール案が出されていたが、今回はないのか。

#### 【事務局】

第1回に示したスケジュールについては、前回、スケジュール変更案を示し、承認をいただいたところである。予定としては、第4回検討委員会終了後は、資料1にあるが、今回協議いただいた考えられる機能を市民アンケートの形で市民の方々から意見をいただきたいと思う。アンケートを集約するのに一定時間を要するため、年明け1月を目途に第5回検討委員会を開催し、そこで絞っていききたいと思う。その時には資料1の右下の機能評価（イメージ）というものを、市民アンケートの結果も踏まえ、示させていただき、ご議論をいただくことを考えている。最終、絞り込みが出来たらいいが、もし出来ない場合は、翌2月に第6回検討委員会を開催し、集約をしていききたいと考える。

#### 【委員長】

他に質問はないか。なければ意見を伺う。

### 【委員】

質問になるかもしれないが、今の日程の問題とクロスSWOT分析（案）が出て、市民アンケートを実施する時に問い方が問題となってくる。例えば、シンプルなのは、西敷地が2,500㎡位あって、ここをどういう利活用した方がいいのかという普通一般的な問いかけと、これから協議をしようとしているSWOT分析との関連であるが、クロスSWOT分析の参考資料を考えてくださいという文章をもらって回答をしようとした時は答えづらいと思う。アンケートを取る以上は白紙で問うというやり方か、いくつかの選択肢を示すやり方が普通は考えられる。どこまで詰めて、これが足りないなどを議論し、仕上がったものをベースにしてアンケートを取るというイメージとアンケートがフィットしない。

### 【委員長】

委員の意見に対して意見はないか。

### 【事務局】

これまでに至る検討経過も踏まえてアンケートの問い方は、事務局でも市民の皆さんの誰が見ても分かるような問いかけをしなければならないと部内で議論をしている。西敷地の位置付けを説明した上で、検討委員会でここまで導き出した経過を踏まえながら、アンケートを取らなければならないが、一つ一つの考えられる機能について例示なしでいいのか、例示する方法というのでも考えられるが、例示にアンケートの結果が左右されるのではないかという懸念もある。分かりやすい方法を本日の会では示すことはできないが、市民に分かりやすい形で示していく方向で検討している。

### 【委員】

アンケートの中身について、この委員会でいいとか悪いとかいうことにはならない。基本シンプルにしなければならない。例えば、積極攻勢のところにある「官民協働によるエリアマネジメント」ということは、一般的には何のことなのか分からない。「情報発信拠点」は一般的な市民には分かりづらい。「エリアの創出」「街なか広場」など、そのような概念に慣れていない一般市民は分かりづらい。そういうところの整理をするのが事務局の仕事ではないかと思う。

### 【事務局】

ご指摘も含めて他にも「アクティブシニア」「メディアセンター」など、行政には一般的であっても、市民の皆さんに分かりにくい表現については、注釈をしながら分かりやすい表現で示していきたいと考える。

### 【委員】

委員の意見に被せて、文言が委員の中でも分かりにくい言葉が、ぼんやり分かっているが、それを言葉に明確に表現するのは自分の中でももどかしいところがある。第3回委員会開催後、新聞にも西敷地問題に関しての意見が出ており、その中では物を造るのでなく、有事の災害に備えた拠点にすべきで、物を造るべきではないという意見が非常に多かったように思う。新聞で多かったというのはどの程度多かったのか、高知市民みんながそう思っているのか、一部の人が多いと言っているのかが分からないところがあるが、市民の意見を集約するにしても、記述式の部分があるのか、何を造ったらいいのか、何を造らなければならないのかという箇所があればいいと思う。誘導するのはいけないと思う。一部、記述式があれば、多くの市民の意見を知り得て、この委員会が方向性を出しつつも、市民の意見を吸い上げてやっている姿勢を見せるべきではないかと思う。

## 【委員】

委員の意見に共感するところが多いが、今日の議題であるクロスSWOT分析の文言の整理が今日の議題と思っているが、一つ一つの文言の意味が理解しづらいところがある。言葉の分かりづらさを感じている。この後、検討するということであるが、検討した後、市民アンケートに繋がる。委員が分かりづらいのは市民の皆さんにも分かるのかということもあるので、言葉をどのように説明するかは大変難しいことではあるが、そういうことを踏まえて検討してはどうかと思う。

## 【委員長】

具体的事例を踏まえて、もう一度、説明をお願いします。

## 【事務局】

具体的事例は事務局が考えている一例であるので、考えられる機能の全てではない。積極攻勢の最初の部分で、「都会などのアクティブシニアと高知の若者を繋げる地域交流機能」は、地方創生の中で、CCRCとか、都会の元気な高齢の方々に高知へ移住をしてもらおう一歩として、高知の西敷地を使って、ちょうどそこに教育機関が隣接しているので、そういう若者と交流をしてもらおう機能を設けたらどうか。次の「雇用の創出」は、オフィスフロア等を設けて雇用を生み出していこうというイメージをもってもらったらい。「エリアマネジメント」は、中心市街地活性化基本計画の取組に関わってくるが、中心市街地活性化基本計画の中では、まちづくり会社などを作り、そのエリアをマネジメントしていくという考え方があり、特にこの図書館を中心にした帯屋町二丁目と西敷地、帯屋町チェントロを含めた街区は、第1回の説明のとおり、国交省から承認を受けた計画の重点地区である。この部分について、エリアマネジメントを入れていってはどうかということである。このあたりが一番市民に分かりにくい部分ではないかと考えており、この表現についてもどのような形で示すのかということも、現在事務局で検討している。「教育機関の連携や一層の充実を図る」であるが、当然、教育機関が充実しているエリアであるので、各大学や、高校も入るかも知れないが、それぞれが連携できる。それに産業も含めて連携できるようなもの、各教育機関の充実ができる機能を持ってくる。例えば学部などをもってくるなどで、教育機関の一層の充実を図ることである。「学生など若者が集い、若者文化の情報発信拠点とする」は、ミニシアター、街なかに映画館がなくなって久しいが、若者がコンサートをしたり、気軽に使えるようなものをもってくるとか、インターネット発信ということで、ネット配信ミニスタジオをもってくる。「メディアセンターを設置し、おまちの情報を発信する」は、先ほど説明したとおり、放送局の連携が非常に取り組まれているので、各放送局が共同で使えるようなメディアセンターみたいな物を造るというような発想である。「歴史的資産を活用し、現代風のお城下町を再現する」は、第2回の先進地事例を示した際に、「パティオ大門」という商業観光施設であるが、追手門から東西に繋がる追手筋がお城下町を醸し出す雰囲気がない、戦中の空襲も影響しているのではないかと思うが。ここへ一度城下町を再現するというので、イメージしている。「観光資源を活かし、国内外からの観光客のリピーターを獲得する」については、地元産品の物産館をここに設けることをイメージしている。獲得する方法は他にもたくさんあるので、物産館は一つの事例と考えていただけたらと思う。「家族で訪れて、子どもが安全に遊ぶことができるエリアの創出」については、委員の方も個別に意見をいただいたところであるが、子どもたちが職業体験できる施設も一つの事例である。「県外や郊外の大型商業施設にはない機能を有する施設の導入」については、郊外の商業施設にないような何か目新しいものをここに持つことによって、街なかに人を増やす。「災害発生時、一時避難できる街なか広場」については、防災意識の高まり、街なかには賑わいエリアであるので人がたくさん来街してくる。市民の方々が一時的に避難できる場所、ここは浸水エリアであるので、そのまま避難をしたままにはならない。弱点強化であるが、「車を利用しない学生や高齢者等をターゲットとする施設や

空間」については、分かりにくいと思うが、公共交通機関や自転車を利用する方をターゲットとしている。現在の中心市街地活性化基本計画の 57 事業のうち、54 事業は着手しており、3 事業は着手できていないが、その中の一つに駐輪場整備事業というのがある。地下に駐輪場を造るとか色々な方法がある。車を利用しない人向けに、駐輪場を含めた施設を造ったらどうか。「日曜市やよさこい祭りに関連する施設整備や空間利用」については、日曜市で飲食するところがないということがあるが、外部環境の脅威のところでは環境悪化の懸念があり、飲食スペースとの兼ね合いが難しい。よさこい祭りの一方的に踊るだけではなく、よさこい祭りに関連するような施設・空間ができることで西敷地の利活用が図られるのではないかと考える。

**【委員】**

アンケートの内容が大事。SWOT分析をどうアンケートに落とし込んでいくのか、絞っていくのか。

**【事務局】**

クロスSWOT分析を絞っていく考えはない。委員の皆様からの意見を加筆したものも含めて、全てを市民アンケートに図りたいと考えている。

**【委員】**

アンケートを取る時、中心商店街の人は西敷地については答えることができるが、少し離れた人にとっては何のことが分からないと思う。羅列されてもなかなか落とし込めない。SWOT分析が終わった時に、背景と目的を作るべきだと考える。こういった背景があり、こういった目的でもってこの西敷地を活用したいというのであれば、市民の方もアンケートに答えやすい。直接、アンケートを取るに当たり、積極攻勢を見るのか、弱点強化を見るのか、差別化を見るのか分からない。人の価値観は年齢などによって必要なものは変わってくる。どこを抽出するのか、全員は無理であるから、旗振りは事務局がしなければならないが、だからこういうものが必要ですよという方向性を示した上で、アンケートを取らないと漠然としたものになる。本当に必要とされているものは何なのかということ出した方がいいと考える。SWOT分析に戻っていくが、「家族が訪れて、子どもが安全に遊ぶことができるエリアの創出」が（自分の中では）クエッションマークになっており、何と差別化するか分からない。資料2に戻って、「子供の向けの施設等が少ない」が脅威になっているが、脅威ではなく機会に入れたらいいと思う。そうすると積極攻勢や弱点強化になるのではないか。「災害発生時、一時避難できる街なか広場」というのもいらないと思う。

**【委員長】**

中心市街地の活性化が目的と思うが、目的の説明をお願いします。

**【事務局】**

委員からも話があったように、なぜ西敷地の検討を始めたのか、西敷地というのはどこなのかというところから説明をしなければならないが、市内アンケートを取らせていただく方、全てが理解できない内容では市民アンケートにならないので、分かりやすい形でアンケートの背景を書いた上で、イメージとしては、資料3がそのまま出ていくとは思っていない。本日ご意見いただくと増えるかもしれないが、13機能を分かりやすい形でアンケートを取らせていただき、委員からも記述式があったらいいということなので、その他にも記述式の部分を設けるなどの工夫した検討もしていきたいと思う。

**【副委員長】**

議論にいくまでの整理に時間を要する。その原因は、タイムスケジュール中にこの検討委員会で検討して市民の意見を聞くということは当然やっていかなければいけないことであるが、プロポーザルという手法、定期借地する、民活ですするという前提の下にやっているの、我々でこれがいいということで第三セクターなどの行政も絡んだ資本も入ったことであれば、もっとどんどんといけるのであるが、民間活力だと収支、継続性、投資に見合う回収をする、少なくとも損をしないという計画を出してくるのであれば、ここに出ているのはほとんど建物を建てるにしても、公共的なものになってくるので金を生まない、税金を投入しないと成り立たないようなハードになっているように思う。ハードか、もしくは差別化とか弱点強化になると、とりあえず建物を建てないで更地をどう運用するか、計画がないからそのままおいて置くのではなく、積極的更地の差別化とか、西敷地に寄与する。「都会などのアクティブシニアと高知の若者をつなげる地域交流機能を設ける」は民間が儲けるような、手を挙げるような事業ではない。手を挙げるところがあるかないかすぐ考えてしまう。手を挙げるところがなかったらどうする。タイミングである。これで進んで来年3月に歴史博物館、再来年夏に図書館、県立大ができる。今度、第二期中心市街地活性化基本計画を立てようとしている、それに載せようとするのか、色んなタイミングが重なって、本当に今その時かということ再度認識しながら検討しなければならない。空き地か、大学にしてもココプラがあるが、3、4大学の建物を建てるわけであるから、民間ではあるが、公共的な部分でできるかどうか、民間になると儲けになる、今のタイミングか、積極的空き地か、今だったら公共施設のタイミングがいいと、定期借地か、プロポーザルというスケジュールになっているので、複雑に絡み合っている。

**【委員長】**

中心市街地活性化の関係であるが、かなり大事なことだと思う。

**【事務局】**

副委員長から話のあった民活の話、収支の問題であるが、ここに出ているものによっては収支の取れないものも想定されるわけであるが、もともと第1回の会の中で、高知市の考え方を示したもののの中に、賃貸借とする、事業用定期借地権を想定という形で示している。議論の中で、機能を最終的にSWOT分析で組み立てていくことになったので、当然出てくる機能については、寸借せずに出てきているのが、今ここにある13の考えられる機能である。これを資料1で、評価をする際には、まだ評価項目を決めているわけではないが、経済性など一つ一つの機能がここにおいた場合にどうなのか、各委員の中でご議論をいただきたいと考えている。

**【副委員長】**

機能は出尽くしているように思う。良く出来ている。しかしこれを全部するというにはならないので、2つ、3つの合せ技ということになるが、どのタイミングでどういう地権者の考え方。

**【委員長】**

地権者の考え方ではなく、中心市街地の活性化の考え方である。

**【事務局】**

西敷地については、現行の中心市街地活性化基本計画の中に掲載されている。図書館の遅れが生じており、平成23年の現行計画を検討する部会の中で、検討してきたがその際には結論が出ずに、中間報告という形になっている。改めて、図書館の目途が付いてきたので、今回の委員会を立ち上げたことについては、第1回で説明させていただいたとおりである。タイミングとしては、図書館の開館に合わせて、西敷地が、現状、仮設図書館があるわけであるがそれが撤去された時点で更地のままで置いておかず、何かそこをもう一度利活用できるような機能を設けて、更に中心市街地の

活性化に寄与をしていくようなものにしたというのが高知市の考え方である。今のペースでいくと、平成29年度末が現在の中心市街地活性化基本計画の期間満了にあたる。そういうことからいうと、実際、機能を今年度決めて、仮に来年度にかけてプロポーザルをやったとしても、着手できるのは来年度の後半若しくは第二期計画、第二期計画は現在検討に入っている。30年度を始期とする第二期計画の策定を考えており、現行計画のかなり進捗が進んできた段階で、新たな課題もいくつか見えてきた。その一つは、新聞報道等でもご承知とは思いますが、中心商店街の西側と東側において、来街者の偏在化が見られるようになってきた。そのあたりも含めて、第二期計画に向けて検討を始めようとしているところである。検討していただいている西敷地の事業についても、第二期計画を策定するとすれば、二期計画が始まる頃には事業が完了していないので、一つの事業として入ってくるのではないかと考えている。

#### 【委員】

アンケートをとる際には、単にどう思いますかと聞いたら色々な意見が出てまとまらなくなるので、目的や課題、市の基本的な方針、この会議の経緯などを丁寧且つ簡潔に説明をした、アンケートを作って、その上で何を答えてもらいたいのか、答える側の姿勢を明確に導いていくということの大前提にした方がよい。そうでないとよさそうなことは全部やった方がいいということになってしまう。今回の分析表を見ると、以前の会でありたい姿「教育、商業、観光文化等の地域資源を活用し…云々」という文章が出たときに、結局てんこもりでわかりにくいという意見があったが、今回の表はそれを細分化しただけで、方向は相変わらず見えないような気がする。よって、例えば、積極攻勢のところ具体的に結びつくような細かく分けたものがあるが、これらを別の新しい言葉に置き換えられるのかどうかということが重要だと思う。例えば、「学生など若者が集い、若者文化の情報発信拠点とする」と「メディアセンターを設置し、おまちの情報を発信する」とは、なんとなく一つ概念でまとめられるのではないかと。このあたりを整理していくと、細かすぎずにもあまり漠然とせず、答えやすい言葉が出てくるのではないかと思う。例えば「歴史的資産を活用し、現代風のお城下町を再現する」は具体的であるが、前に私が言ったような、都市の歴史の風景という言葉とかでももう少し膨らみのある判断ができる言葉を見つけていって求めていった方がいいのではないかと。また前々から言っているが、民活を前提とするのかどうなのかも気になる、考えるにあたってまだわからない。市がやる、市が主催でということになっているとどうしても公的なものになるわけで、民活でやるということになると考えられる具体のほとんどが違うのではないかと。歴史博物館は博物館が高知市の中心部の活性化を行うとは思ってなく、博物館があることによって県外からお客さんが来ることになって、結局は高知市の中心部の活性化に繋がっているという二段構えの発想である。この西敷地の問題もこれ自体をどうしていくかということもあると思うが、「ひいては高知市の活性化に繋がる」という考え方もあるような気がして、少しみんなで練っていかないといけないと感じた。

#### 【委員】

委員が言ったところが一番肝心で、その前に副委員長が言ったこと、脅威のところには実は今の経営状況というのは、公共の財政だけでなく民間の投資意欲も低下している。高知市では駅前広場、結果的にそうなった。西敷地の場合に中活の絡みもあって、そういう位置付けをしているが、官が投資をしてそういうもの造ってやっていくということではなしに、民活ということになれば、脅威のところはそれだけの魅力があるかということになる。一昔前は公共がやったものが、満載されている。そこが前提として、その前提が危ないものではないかというのが委員共通した考えがあるのではないかと思う。ここのところを精査する。クロスSWOT分析の原則はかくあるということが先はないといけない。そのことに対して4つの指標で分析し確かめる。その元がなくてこれ自体のベースの議論をしていって作り出すというのは困難な作業だと思う。タスク作業会の委員のようだ。原

則としてこういうものを造るということが先あって、それに対してこの分析が後をついていって、皆さん確かですかということで意見を聞くという方向にならないと、クロスSWOT分析をベースにしてアンケートを取ると、全てがマルになると思う。それは必要であるということになる。そういうことになってくると建物もかなり高層化する、敷地いっぱいにするとか、満載型の施設になる。そういう形でいくと、採算ベースではないわけであるから元の話に戻ってくる。ころあいを見て一定絞って、こういうものにしたいがどうですかという形にしないといけない。このままいくと、資料1で「イメージ」の形で分析をして絞っていくことになると思うが、市民アンケートに13項目が埋まったとして、選択肢として広場に残すという意見と何かを造るという意見は、問いかけが13対1の関係になるわけである。アンケート技法の問題になるわけであるが、何かを作るという選択肢ということにいてしまい、造るということになると切り捨てがたいということになる。結果として、造るという意見をいった方が満載になり、造るという意見が強ければ強いほど、広場に残すという結果になる。整理をしていかないといけない。

#### 【事務局】

13対1の話であるが、「災害発生時、一時避難できる街なか広場」と位置付けをしているが、経済性は別として、市民の皆さんにお聞きしながら、街なか広場がどうなのかいうことの間いかけをしたいと考えている。

#### 【副委員長】

この広場で残すということになったら、プロポーザルの選択肢はなくなる。

#### 【事務局】

議論の仕方として、ピラミッド式に議論をしていく形を検討委員会で当初は考えていたが、委員ヒヤリングにおいて、それぞれ色んな意見を持っていることが委員長と協議しながらわかった。その中で委員長からSWOT分析を用いて、環境分析をしてそこにふさわしい機能を導き出していこうという提案をいただいて、本委員会ではSWOT分析、GAP分析、クロスSWOT分析をやってきた。第1回の会議で、賃貸借にするという前提を高知市から出したが、このSWOT分析を始めたからには、その土地の環境に必要な機能というものを考えるわけであるから、必ずしもその方向が市の考え方とマッチしない機能も当然出てくる。出てきたものについて、市の考え方と違うからといって排除するのではなく、この13機能を市民の皆さんにご意見をいただいた上で、その結果も踏まえて、検討委員会で検討いただきたいと考えている。

#### 【委員長】

委員から目的が明確でないということがあったので、中心市街地活性化基本計画の中で動いていくという風に考えていただけたら、それが目的になると思う。中心市街地活性化基本計画がどういものかということをも市民アンケートのときに説明をしておさなければならない。

#### 【委員】

委員長の言われた大きなところそうで、多くの市民の方や観光客などに利用してもらいたいというのが大きな目的だと思う。その中で、1回目の会、先ほど事務局から話があったが、色々な論議をする中で、定期借地権、本来高知市ではそういった方向でやりたいという考えはあるが、外部の委員さんに集まっただき、論議する中でやはりそうでないという意見があれば、委員会としての意見がそういった形で出てきても、当然仕方ないと市は考えている。そういった意見も踏まえ最終的に市としてどうしていくかという判断はしなくてはならないが、市民アンケートをし、外部の委員さんの意見も聞き、出てきた機能であれば、尊重していかなければならないという認識に立っ

ている。クロスSWOT分析の中身については、皆さんからの意見を聞く中でも、項目が足りないという意見はなかったのが、一定この13項目の中に概ね入っていると思っている。これからアンケートをしていくわけであるが、ご心配いただいているようにこれをそのまま書いたら、何を書いているのかということになるので、どういう風な形でアンケートに結び付けていくのか事務局で考えていくことであるが、13項目すべてをあげる方法もあるし、委員が言われたようにまとめた上で例を示して、それぞれに評価をいただくのではなく、判断いただくという方法もある。13全部をチェックする方法とまとめてやる方法と考えていきたいと考えている。ご心配をお聞きした上で、アンケートは市民の方に回答してもらわなければならないので、できるだけ分かりやすく、回答しやすい形で工夫はしていきたいと思っている。資料1にある評価についてもこれをやりますというふうに決めたわけではないが、時間があれば委員会でこの項目があればいいということがあるかもしれないが、事務局と委員長で相談しながら、どういった評価がふさわしいか検討を進めながら、次の会に進めたらいいと考えている。

**【委員】**

今の委員から、定期借地、民活が前提であったが、今の話だと必ずしもそうではなく希望はあるが、そういうことが前提ではないと受け取ったが、そう理解してよろしいか。

**【委員】**

当初はその前提で検討いただきたいということであったが、そういった方向でないという意見がたくさんある。これから市民の皆さんの色んな動きもあるし、アンケートもしていく中で、この委員会が出した最終的な機能というのは定期借地権ありきで結果を出していただくのは無理があるのではないかと考えている。

**【委員】**

後段の方は、包括的な問いかけをしたらどうかという話であったが、最初の事務局の説明と委員の説明とは違うように思うが。

**【委員】**

市民の皆さんに答えていただかないと意味がないので、分かりやすいアンケートにしようということは事務局との間で確認はできているので、具体的にどんなアンケートをするかということはお出来ていないので、事務局と違っているのではなくてこれからの論議の中で色んな方法を考えていきたいということである。

**【委員】**

いずれにしても市民に参加してもらって、市民に答えてもらわなければアンケートにならないので、工夫を凝らしてやっていただきたい。民活ということになっているのであるから、プロポーザルという手法でいった時に、応募がないということになった時に、他の手法については視野には入っているのか。

**【委員】**

今のところはそこまで考えていない。公が担う機能ばかりではないのかという意見もあったが、プロポーザルをやるということであるので、こういった機能も必要ではないかということで、委員会からも意見をいただきたいと思っているが、最終的には民間に手を挙げてもらいたいということであるので、この機能だけで建ててもらいたいという話ではない。それ以外に何か別のものを提案するということもあろうかと思う。そういうことも含めてプロポーザルの中で決まっていく。機能

以外は何かという判断もあるし、プロポーザルであるので民間の知恵を借りたいと考えている。

**【委員】**

プロポーザルの審査は誰がするのか。

**【委員】**

はっきり決まっていない。今の段階では、行政だけではなく、西敷地をどうしたらいいのかということについて相談したらいいような方々に委員さんになっていただいて審査をしたいと考えているが、はっきり論議はしたことはない。

**【委員】**

市民アンケートを取るということであるから、市民代表的な方も当然入って、イメージのところにある県外人とかもあるので、そういった面で評価をするというここが一番大事であるから、もとのコンセプトがちゃんと活かされているかどうかということが大事である。

**【委員長】**

中心市街地の活性化でこの土地を有効に使っていきたいということが根底にある。

**【委員】**

市民や観光客など色んな人にとって、高知市中心部というのはどういう街なのだろうということが考えるべき一番重要な点であって、それはやはり城下町として展開したという歴史性が一番強いと思う。そのためには都市空間論のような考え方が必要で、それは都市の歴史性をいかに活かすかという問題だと思っている。熊本や鹿児島には広い公園があって、城下町的雄々しさがあるといって高知市にただ広場があれば歴史性ができるということではなくて、歴史性を説明するための機能も必要。そうするとそこは折衷的な発想にはなるが、広場・建物の二者択一ではない考え方も必要になってくる。やるかやらないのかの問題だけで考えていくと議論は進まなくなるような気がする。民活の問題で決め付けるのではなく、組み合わせによって民活ができる、プロポーザルに出せる方法はないか等色々な可能性を検討しないと、このままずっと平行線のまま議論が進んでいくような気がする。

**【委員長】**

色々考え方があり、アンケート調査について事務局が質問してもらって、何か分からないことがあれば、皆さんにも相談するというので、アンケート調査はやっていただく。

午前 11 時 45 分終了